

## 第5回検討委員会における委員意見への対応

## 1. 避難行動シミュレーション（第5回資料2）に関する意見

発言者	項目	意見	対応
越村 委員	避難開始時間・避難速度(P12)	避難開始時間は線形で与え、避難速度は一定のバラつきがあるが、個々の条件の与え方はどうしているか。避難場所まで遠い人ほど、避難開始が遅く、避難速度も遅いなど、最悪の条件か。それとも代表的なものか。個々の条件の与え方によって結果にどう影響するか何ケースか試してみるべきではないか。	避難開始時間と避難速度に関係はなく、ランダムに与えている。全体としてのバラつきだけでなく、発生地点ごとに一定のバラつきを与えている。これらの条件の結果への影響について分析し、第6回委員会資料5として整理する。(対応資料:資料5,P7)
徳永 副委員長	シミュレーション全体に関して	こういったシミュレーションの場合、本来なら数十回の平均をとるが、今回はそれが難しかったため代表的なパターンとなっている。代表点で発生させているので、避難施設まで近い遠い、避難開始が遅い早いなどの統計までは出せていない。「条件が満たされている場合において」という見方が必要である。 (今村委員長) 限られた条件のもとではあるが、今後の啓発等に使えるツールである。	避難開始時間、避難速度の与え方が結果にどう影響するか分析し、第6回委員会資料5として整理する。(対応資料:資料5,P7)
平山 委員	避難開始時間(P12)	地震発生から45分後までの想定だが、住民からすると、避難勧告などが出されなければ動かない。それを加味するともっと避難に時間がかかるのではないか。	情報伝達手段として、津波情報伝達システムの拡充整備や緊急速報メール等の普及について取り組んでいるが、避難勧告等がなくても、自主的に避難開始をしていただくよう周知啓発していきたい。
増田 委員	避難施設配置(P9)	何㎡に1ヶ所といったように、面積あたりの避難施設の数を出せないか。 (今村委員長) 面積に対する避難施設の数に記載できないか。	施設の配置基準については、徒歩での避難可能距離（500～900m目安）をもとに、集落付近の市有地としているが、ご意見等を踏まえ検討していきたい。
	ケース設定	1回の解析にどれくらいかかるのか。例えば、避難開始時間を5分～30分にした場合など、いくつかのパターンはできないか。 (越村委員) 重要なのは、「市民が行政からの情報だけに依存するところなる」、「そうではなく1人1人で行動すればこうなる」ということを見せることである。	シミュレーション結果をもとに、避難行動のあり方等について検討していきたい。

2. 素案（第5回資料3、資料4）に関する意見

発言者	項目	意見	対応
今村 委員長	概要版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に分かりやすいか</li> <li>・震災の実態を踏まえているか</li> <li>・地域特性が考慮されているか</li> </ul> という視点が必要。 概要版の道路ネットワーク図は少し大きくしてほしい。	第6回委員会資料4「主な変更点」として整理する。 (対応資料：資料6裏面)
越村 委員	素案第4章 (P17～)	資料2(シミュレーション)の課題対応の方向性(P22,23)が大事である。津波避難の教訓として素案にも盛り込んでほしいが、第4章になるのか。	シミュレーションから得られた課題の対応は、概ね第4章のソフト対策に含まれているが、第5章のまとめや資料編のシミュレーション概要として素案に盛り込んでいる。(対応資料：資料7,P24,25,36,37)
齋藤 委員	素案第4章 (P21)	地域の訓練とあるが、学校が要になっているので、具体的に、地域と学校が融合して訓練するようにもっと強調して書いて欲しい。 例えば、海岸公園などにいた場合、その地域の方だけではないので、全市を通して教育の中で訓練が必要ではないか。 (今村委員長) 基本的には連携が必要なので、米印ではなく、しっかり記載してほしい。	第6回委員会資料4「主な変更点」として整理する。 (対応資料：資料7,P23)
武田 委員	素案第4章 (P21)	(齋藤委員の意見を受けて) 南小泉地区などは、中学校単位で地域と訓練をしている。こういう例も踏まえて、地域と学校との連携をきちんとしてほしい。	第6回委員会資料4「主な変更点」として整理する。 (対応資料：資料7,P23)
徳永 委員	素案第4章 (P21)	時間の経過とともに意識が変わる中で、継続的に地域に根付かせることが重要である。そのことを付け加えてほしい。 (今村委員長) P21(5)等で「継続的に」ということを追加してほしい。	第6回委員会資料4「主な変更点」として整理する。 (対応資料：資料7,P23)
徳永 委員	自動車避難 割合 素案資料編 (P22,P28)	自動車 20%の数字を住民にどう捉えてほしいかの記載はあるか。	第6回委員会資料4「主な変更点」として整理する。 (対応資料：資料7,P25)

平山 委員	避難施設配置案(P29)	今朝の新聞に 10ヶ所の市有地を使って整備すると出ていた。うちの地区でも、陳情するため準備しているものがあるが、市の配置案では、あまりにも海側に近すぎて住民が海に向かうことになる。早く設置するのは当然だが、柔軟性をもって民間の土地の買収等でなんとかならないか。なるべく早く説明会を開き住民の意見を聞くべきである。	住民説明会等での意見等を踏まえ、施設配置の合意が得られるよう努めていきたい。(1/15 説明会実施済)
----------	--------------	--	---

### 3. 基本的考え方（第5回参考資料2）に関する意見

発言者	項目	意見	委員会での回答
佐藤 (美) 委員	避難施設配置案	宮城野区の 5ヶ所の避難施設は、仮設から戻って生活する上では心強い。市の土地を活用して一刻も早く整備してほしい。 かさ上げ道路は現在すごい渋滞している。避難の際、住宅地にも車が殺到して、住宅地も混雑するのではと危惧する。	住民説明会等での意見交換を踏まえ、施設配置の合意が得られるよう努めていきたい。(12/25 説明会実施済) かさ上げ道路からの避難については、3本の主要避難道路が受け持ち、地域住民の避難については住宅地の道路が受け持つ、といった道路の役割分担についてご理解いただくよう、周知・啓発や、案内・誘導に努めてまいります。
平山 委員	避難施設配置案	東部道路法面の避難階段 5ヶ所とあるが、北側にはない。産業道路から渋滞が起こると言っているのだから、北側にも設置してほしい。	東部道路への避難階段は NEXCO が設置しており、意見等については、NEXCO に伝えていきたい。
増田 委員	自動車避難割合	ケース 1 のように 73% が実際は車で避難した。アンケート等では、一旦自宅に戻って車で避難した方も相当いた。どういった人を具体的に車で避難する方にするか地域で揉めるだろうが、地域への投げかけも重要である。 (今村委員長) 80%、20% という数字は一例であり、目標である。事例としてみてほしい。	第 6 回委員会資料 4 「主な変更点」として整理する。 (対応資料：資料 7 ,P25)